



スパークス東方投資見聞録

発行日：2008年5月22日

ヘッジファンド投資を本格化する日本の生保

ハイライト:

- 新たな投資機会を求めて
- ファンド・オブ・ファンズで投資
- 金融危機がヘッジファンド業界に与えた影響
- アジアのヘッジファンド現状について

新たな投資機会を求めて

低金利と不安定な為替相場が、債券を中心とした運用を行う生命保険会社を新たな投資に向かわせています。その代表例がヘッジファンドや未公開株への投資で、彼らが必要な収益を獲得するためには今こうした投資が必要不可欠になってきているのです。

彼らは、約160兆円もの資産を運用していますが、その中でより高いリターンを獲得するために、国内や海外の債券保有残高を減らし、今後その一部をヘッジファンドなどのオルタナティブ投資に積極的に配分していこうとしています。日本の大手生命保険会社9社の間では、こうした新しい投資機会を求めヘッジファンド投資に前向きに動いておりますが、現状の投資金額はまだそれほど大きいものではありません。

ファンド・オブ・ファンズで投資

先日、ある大手生命保険会社は、2009年3月までに保有している外債の約400億～500億円をヘッジファンド投資に振り向けていく予定であることを発表しました。しかしながら、まだそれは2007年9月末時点の総資産の約1%未満です。また、別の大手生命保険会社では、株式や債券との連動性が低いということを条件として、複数のヘッジファンドを束ねたファンド・オブ・ファンズ形式でヘッジファンド投資を増やすことを検討しています。

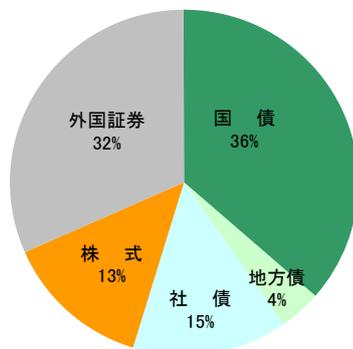
金融危機がヘッジファンド業界に与えた影響

ある大手生命保険会社の運用担当者は、「かつてヘッジファンドは世界的な金融危機によって打撃を受け、そして多くの資金を失って撤退した。しかし、そうしたヘッジファンド危機を通じてファンドが淘汰された結果、現在では危機を乗り越えたヘッジファンドのみが生き残り、ヘッジファンド業界自体が洗練されたものになった。」と言っています。(ちなみに今年この会社では、ファンド・オブ・ファンズ形式でヘッジファンドに約200億円の新規投資を行う予定です。)

マーケット:

騰落率	4月	年初来
TOPIX	12.01%	-7.93%
日経225	10.57%	-9.52%
香港	12.72%	-7.40%
上海	6.35%	-29.81%
深セン	-0.07%	-24.14%
台湾	4.05%	4.86%
韓国	7.13%	-3.78%
オーストラリア	4.48%	-11.74%
インド	10.50%	-14.79%
シンガポール	4.67%	-9.17%
マレーシア	2.59%	-11.43%
タイ	1.89%	-2.99%
インドネシア	-5.83%	-16.07%
フィリピン	-7.87%	-24.07%
MSCIアジア	7.66%	-4.92%
MSCIアジア(日本除く)	8.02%	-7.29%

日本の生保業界の保有有価証券内訳 (2008年2月末)



*上記マーケット騰落率に使用している株価指数の詳細については次頁注書きをご参照下さい。

有価証券保有部分を100として内訳を表示しています。

出所：生命保険協会

ヘッジファンド投資を本格化する日本の生保(つづき)

な日本の機関投資家の間でもヘッジファンド投資がより一般化してゆくことでしょう。

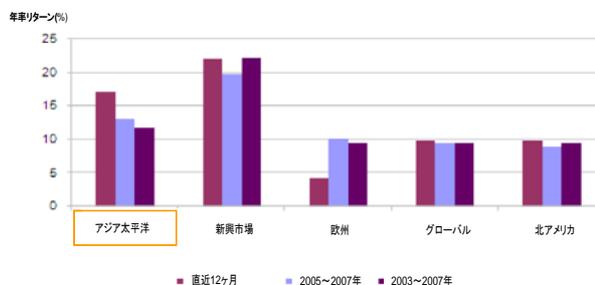
アジアのヘッジファンドの現状について

昨年アジアのヘッジファンド業界の運用資産残高やパフォーマンスが、ユーリカヘッジで発表されたので、ここでお知らせしたいと思います。

まずアジアのヘッジファンド全体の運用資産残高は、2007年12月末時点1,600億米ドルで、2006年12月末の1,320億米ドルから約21%も増加しています。ファンド数も、約1,200と増加傾向にあります。また業界動向で最も目立った変化は、アジアのヘッジファンド1本あたりの平均の運用資産残高です。5年前(2002年末時点)は、約7700万米ドル(約77億円)ほどだったのが、2007年12月末時点では、そのファンドの平均が約1億4000万ドル(約140億円)ほどになっています。

そして、2007年のパフォーマンスは、グローバルのファンド・オブ・ファンズと比較して顕著にリターンが高くなりました。(右上図参照)

地域別のヘッジファンドの年率リターン



出所:ユーリカヘッジ(2007年12月末)

ヘッジファンド投資が拡大する中で、アジアのヘッジファンド業界も着実に成長しているのです。

引き続き、アジアのヘッジファンドやそれに関わる情報をご提供して参りますので、ご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

スパークス・インターナショナル(香港)リミテッド

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

ホームページもご覧下さい。
<http://www.sparxgroup.com>

© 2008 SPARX International (Hong Kong) Limited

*前頁のマーケット騰落率に使用している株価指数の詳細は次の通り。TOPIX:東証株価指数、日経225:日経平均株価、香港:HANG SENG INDEX、上海:SHANGHAI STOCK EXCHANGE COMPOSITE INDEX、深セン:SHENZHEN STOCK EXCHANGE COMPOSITE INDEX、台湾:TAIEX INDEX、韓国:KOSPI INDEX、オーストラリア:S&P/ASX 200 INDEX、インド:NSE S&P CNX NIFTY INDEX、シンガポール:STRAITS TIMES INDEX、マレーシア:KUALA LUMPUR COMPOSITE INDEX、タイ:STOCK EXCHANGE OF THAI INDEX、インドネシア:JAKARTA COMPOSITE INDEX、ニュージーランド:NZX 50 FF GROSS INDEX、フィリピン:PSEI - PHILIPPINE STOCK EXCHANGE INDEX、バクスタン:KARACHI 100 INDEX、スリランカ:SRI LANKA COLOMBO ALL SHARES、MSCIアジア:MSCI AC ASIA PACIFIC、MSCIアジア(除く日本):MSCI AC ASIA PACIFIC EX-JAPAN

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
 (社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員